

今年の稲作もいよいよ大詰め！ 品質向上の決め手は、こまめな水管理！

- ・穂揃い期(全茎の90%が出穂した日)の葉色が低いと、胴割粒が多発生する恐れがあります。⇒必要な穂肥えと飽水管理による地力窒素の発現を促す。
- ・フェーン現象時は、登熟不良・白穂等品質低下の要因となるため、一次的な深水に。

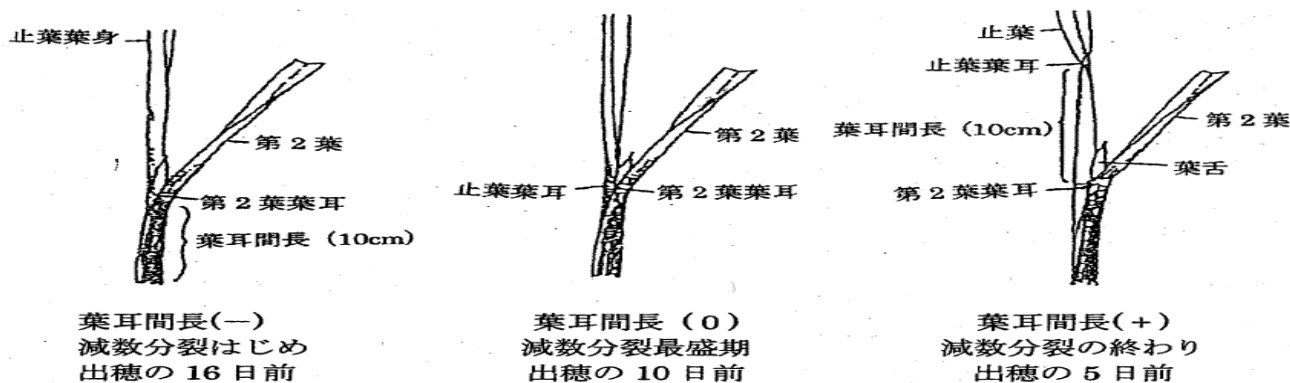
1 水稻生育状況 (7月21日現在) 草丈： 、茎数： 、葉数： 、葉色：

品 種	場 所	移植	草 丈(cm)			茎 数(本/m ²)			葉 数(葉)			葉 色 (SPAD)		
			本年	前年	指標	本年	前年	指標	本年	前年	指標	本年	前年	指標
コシヒカリ			各地域で記入											
こいばき			各地域で記入											

2 コシヒカリの出穂期の予想と穂肥施用のめやす

穂肥2回目は、高温に負けず後半の登熟を良くするために重要な作業です。

ほ場間差が大きいので、穂肥の施用前には、必ず幼穂長もしくは葉耳間長を確認しましょう
止葉の葉耳が第2葉よりも下か上かで出穂期が予測できます



出穂10日前葉色…葉色板(単葉)4.5前後で窒素成分1.0~2.0kg/10a。2回目穂肥えは遅れずに、葉色の濃さにより加減対応をお願いいたします。(燃油肥料高騰対策取組者は測定値記録のこと)

3 カメムシ対策(草刈り)の徹底

○今年の斑点米カメムシ類は発生量が多めです。
畦畔等の草刈りを徹底しましょう。

4 出穂期以降の玄米の発達

○玄米の発達は出穂開花後25日以降まで続きます。水不足・倒伏・高温等により品質低下を招きやすくなります。だから、こまめな水管理で水分供給が必要です。

5 8月は栽培履歴カードの提出月です。
記入漏れの無いように確実な記帳管理をお願いいたします。

